

# 平成30年度 渡島支部 活動報告

## 【会務】

- 4月21日(土) 平成30年度北海道学校体育研究連盟定期総会(会長・研究部長参加)
- 5月11日(金) 渡島体育研究会総会
- 6月11日(月) 第1回役員研修会
- 8月16日(木) 第3回夏季体育研修会開催
- 22日(水) 第2回役員研修会
- 10月19日(金) 第55回北海道学校体育研究大会渡島大会
- 11月16日(金) 渡島教育研究集会森大会(32名参加)
- 12月3日(月) 第3回役員研修会
- 12月14日(金) 北海道学校体育研究連盟研究担当者研修会(6名参加)
- 2月1日(金) 第14回渡島体育研究集会北斗大会(46名参加)

全道研究大会開催に向けて  
 ・4回の部長会を実施  
 ・3回の実行委員会を実施

## 総務部

- 3ブロック担当者会議：3ブロックの活動計画の作成など
- 北海道学校体育研究大会・渡島体育研究集会の開催
- 夏季体育研修会・渡島教育研究集会のサポート 事務手続き、当日の受付・全体進行など

## 研究部

- 研究部会
- 第1回 研究推進計画について
- 第2～6回 北海道学校体育研究大会に向けて
- 第7～9回 北海道学校体育研究大会のまとめ、渡島教育研究集会、渡島体育研究集会の指導案検討・まとめ
- 第10回 今年度の研究のまとめ

## 事業部

- 渡島体育研究集会実技研修会の企画・運営 種目：ポッチャ 講師：下重健治氏

## 広報部

- 年4回の会報の作成・発行
  - ・会長挨拶、役員、地区幹事の紹介
  - ・渡島教育研究集会のまとめ
  - ・北海道学校体育研究大会渡島大会に向けて、授業者紹介
  - ・第14回渡島体育研究集会のまとめ

## 組織部

- 組織拡大に向けた会員募集  
 会員 86名 賛助会員(函館・檜山など) 14名
- 各種研修会などへの参加呼びかけ  
 渡島教育研究集会：32名 渡島体育研究集会：46名

## 1. 渡島の昨年度の研究について

研究主題 「子供が運動の楽しさに気付き 主体的・協働的に親しむ 資質・能力の育成」  
 ～ 副題 ゲームを中心とした授業 ～

### 豊かなスポーツライフの実現

〔研究主題〕

子供が運動の楽しさに気付き、主体的・協働的に運動に親しむ資質・能力の育成

〔副題〕

### ゲームを中心とした授業

視点1：子供の実態に合った  
 授業構想

- ・今もっている力で楽しめるゲーム
- ・ゲーム様相を見取り、指導に生かす
- ・子供の課題意識と教師の意図を関連

視点2：主体的・協働的な学びを  
 保障する学習スタイル

- ・必要感のある課題の明確化
- ・フェアプレイの浸透
- ・作戦マネジメント学習の展開

「運動の機能的特性」  
 (運動のもつ魅力・楽しさ)

## 2. 第55回北海道学校体育研究大会渡島大会について

第55回全道大会を、平成30年10月19日（金）に七飯町で開催した。全道各地から250名近くの参加者を迎え、ゴール型2つ（小中）、ネット型2つ（小中）の授業を公開した。午前中のうちにメイン会場の七飯文化センターにて開会式、全体会を行った。引き続き、午後からは各分科会（グループワーク）、閉会式を行った。

会場	学校	学年	単元	授業者
七飯会場 (ゴール型)	七重小学校	6年	バスケットボール(ボール運動:ゴール型)	教諭 落幸公人
	七飯中学校	3年	バスケットボール(球技:ゴール型)	教諭 村田大樹
大中山会場 (ネット型)	大中山小学校	5年	キャッチバレーボール(ボール運動:ネット型)	教諭 岩本 匠
	大中山中学校	2年	バレーボール(球技:ネット型)	教諭 伊與田篤

これまで多くの授業実践・検証を通して積み上げてきた「ゲーム中心の授業＝運動の特性を十分に味わいながら、目の前にある課題を引き出し、その解決を図る学習過程」を授業提案することができた。「ゲーム中心の授業」を成立させるために不可欠な「ゲーム様相図の活用」「フェアプレイ重視」「作戦マネジメント学習」なども提案することができた。午後からのグループワークでは、参加者一人一人の理論や考えをお互いにアウトプット、インプットすることができ、今後の渡島支部にとってとても有意義な大会となった。「作戦の定義とは?」「(特に中学校における)技能面の指導や評価は?」など、新たな課題を今後研究の中心に据え、渡島支部全員で研鑽を積んでいきたい。

## 3. 渡島管内での主な授業実践（全道大会以外）

### 渡島教育研究集会森大会（11月16日 森町立砂原中学校）

《チェックシート参加者の声から抜粋》



- ☆キャッチやスパイクの質が高く、生徒の実態に合っていた。
- ☆ゲーム中のルールのおさなさ（シンプルな内容）が、集中が続かない生徒でも取り組みやすいものになっていた。

- ★チーム編成に工夫があれば、女子もより積極的に取り組めた。
- ★最低限、身につけさせたいことを明確にできるとよい。
- ★課題を大きく明示すれば、もっと意識しやすいかもしれない。

単元：バレーボール  
生徒：砂原中1年 17名  
授業者：湊 康太



### 第14回渡島体育研究集会北斗大会 (2月1日 北斗市立萩野小学校)



単元：キャッチ  
バレーボール  
児童：萩野小6年 21名  
授業者：柳本亜由美  
高橋 徹也

- ☆自ら課題や練習方法を決め、主体的に取り組んでいる姿勢が見られた。
- ☆楽しそうな表情でゲームに参加する子が多かった。意欲的な子が多く、苦手な子でも活躍の場があるように思えた。
- ☆タブレット（ゲームを撮影）でゲームを振り返ることができ、次のゲームに生かしていた。
- ★チームのめあての自覚化がどの程度なされていたのか。
- ★作戦・振り返りを丁寧に行っていたが、プレイ時間をもう少し確保したい。

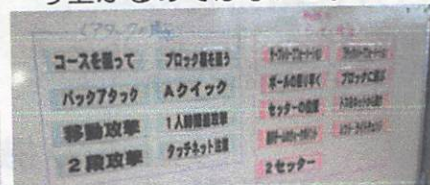


### 第14回渡島体育研究集会北斗大会 (2月1日 北斗市立大野中学校)



単元：バレーボール  
生徒：大野中3年 33名  
授業者：山本 伸行

- ☆スパイクを中心に考えた攻防が生徒にとってエキサイティングになっていた。
- ☆考えるためのヒントがたくさん掲示されていた。考える材料をある程度教師側で用意するのが良かった。
- ★男子はキャッチなしでもやれそう。その方がリズムも速くなり、もっと盛り上がるのではないかと。



- ★女子はネットの高さを少し下げ、コートをお狭くしても良かったのではないかと。